

卒業証書が欲しいんや!

岩橋夜間学校公開授業

3月13日金曜日19時30分より、岩橋児童館において公立化に向けての動きがないなかで学習者とスタッフが、この現状をより多くの人に知ってもらうために岩橋夜間学校公開授業をひらいた。

授業は、日本国憲法の前文を勉強した。難しい原文をそのまま読みあげることからはじまり、段落ごとに、優しい文章を読みあげた。学習者からも「この字やったらわかるわ」「この言葉



岩橋から県下に広がることを願って...

は難しいわ」などと言いは

から授業はすすんだ。20時30分からの座談会では、参加者からいろいろ質問がだされた。それに対して学習者やスタッフの方から今の想いが語られた。

学校へ行っていいこと、が、恥ずかしいことではないんだ。差別の結果なのである。参加者もその思いに大きく共感した。(スタッフ 吉本拓司)

原発いらない 3・11

福島県民大集会ひろく

3月11日、福島県郡山市の開成山野球場で「原発いらない! 3・11福島県民大集会」安心して暮らせる福島をとりもどそうと、がひらかれ、全国から1万6千人が参加、和歌山県連から松井資喜・青年部長と事務局が参加した。

た東日本大震災から1年。東京電力福島第一原発が震災で破壊され、メルトダウンを起し、今なお放射能漏れを起している。このため多くの福島県民が故郷を追い出され、放射能被害で農作物、水産物に大打撃を与えられている。原子力発電所は福島県だ



原発廃止を求め1万6千人が野球場を埋めつくした

ている現状は、未だに厳しく大学進学率においても大きな格差がみられる。学力保障はもろろんのこと親の経済力、教育力などに部落差別が提起する課題が山積している。このような状況をふまえ、すべての子どもたちに教育を保障させるとりくみが必要である。

多くの著名人も賛同

集会は13時からシンガーソングライターの加藤登紀子さんのコンサートで始まり「ふるさとを忘れないで」など6曲を熱唱。また、日本音楽協会福島支部の人もとも原発立地の会員がつくった「望郷」などを披露し、ともに原発反対のメッセージを訴えた。

開会宣言につづき、集会呼びかけ人代表の清水修二・福島大学副学長は「3・11は地震・津波の鎮魂の日であるのに福島では目に見えぬ放射能災害により人心の分断という悲劇にあります。子ども、若者は

減り続け地方自治も存亡の危機にあり、原発はいらないという叫びとともに決意を固める集会にしよう」と訴えた。

大江健三郎さんの連帯あいさつに続き、6人の地元県民からの訴えがあり、豊かかけがえのない生活を奪われ、放射能に怯える日々心から「原発はいらない」と叫ぶ県民の訴えに耳を傾けながら、14時46分におこなわれた黙祷のなか

で、参加者全員で反原発の思いを新たにしました。最後に「広範囲に取り返しのつかない被害を及ぼし、人びとや地球から未来を奪ってしまう放射能災害を二度とこの国土に招いてはならない」とする集会宣言を小淵真理・アウシュヴイツツ平和博物館館長が提案し、参加者満場の拍手で採択され福島県民大集会を終えた。

和歌山県男女共生課と話し合い

和歌山県男女共同参画基本計画が改定されるにあたり、県男女共同参画課と女性対策部が話し合いをした。はじめに、今回の改訂のポイントについて山東美代・同課班長から説明があり、そのあと意見交換をおこなった。「男女共同参画への基盤づくり(4)多様な立場の人々の取組」で、「女性であることで複合的に困難な状況におかれている場合があり、あらゆる人々の社会参画を可能にする。

る人権尊重の社会づくりをめざすために意識啓発等に取組を推進すること」と記載がある。これについて女性部から、複合差別は明らかに存在し、複合差別の立場にある人々のそれぞれの問題に留意した施策の展開が必要なことや、セクシャルマイノリティの人々に対して記述と施策が欠如していることを指摘した。マイノリティの女性たちにも届く基本計画の改定を求めている。

主張

高等教育の学費の無償化にとりくもう

〈考案〉国際人権規約 A規約 第13条

私たちは、部落差別をなくすとりくみとして、教育の機会均等の権利の完全保障の闘いとして教科書無償化や「給付型奨学金」を勝ちとつたが、奨学金は法律が失効すると同時に貸与へと逆戻りし、今日にいたっている。

その奨学金制度が今年4月から改正され、制度創設当時から懸案事項であった第三者保証人が必要になつた。

とが教育の機会均等の権利の保障になる。国連は1966年に国際人権規約を採択し、日本政府は79年にこの条約に加わりながら、中等・高等教育の学費無償化条項は保留したままであった。高校と大学の学費を段階的に無償化することを定めた国際人権

と協議がはじまった。日本の大学の授業料は高額化になり、経済的負担が子どもたちに重くのしかかっている。また、日本学生支援機構による「貸与型奨学金」は、就職難や収入源などによって返済が困難な現状がみられる。とりわけ部落の子どもたちのおかれ

化・無償化。中等教育の機会均等と無償教育の漸進的導入。基礎教育の奨励・強化。奨学金制度、教育職員の物質的条件の改善。父母の私立学校選択の自由、宗教的・道徳的教育の確保の自由。

文化の窓

「告発」

今はサンフランシスコの観光名所になっているアルカトラズ刑務所が1941年に実際にあった「ヘンリー・ヤング裁判」を描いたもの。彼は、生きるために5ドルを盗み、2度の脱走からある地下牢に入れられる。そこはあまりにも悲惨な環境であった。食事は3日に1度。毎日のように受ける拷問で、3年間の地下牢から出てきた彼は囚人を殺害してしまう。この事実を知った若き弁護士はアルカトラズを告発する。人権無視が横行するアメリカ刑務所の実態に迫った真実。



●著者：ダン・ゴードン、発行：1995年3月、二見書房 ISBN4-576-95061-4